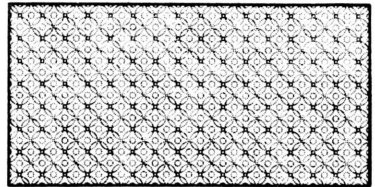


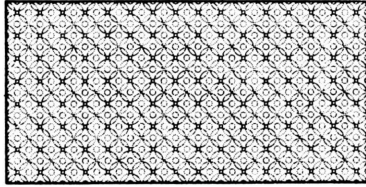
# 会報

No 5

1984.10.15 発行



京都府図書館等連絡協議会



事務局  
京都市左京区岡崎成勝寺町9  
京都府立図書館内  
TEL (075) 771-0069



長岡京市教育委員会教育長 湯浅成治

## 私の出会った本

### 「昔日の感慨をこめて」

本との出会いは、人との出会いと同じく、ときにドラマチックなことが起こるものである。読書の喜びは著者の心が私たちの心にじかに震動することによって生ずる。このような時、私たちの精神は昂揚し、云い知れぬ感動を覚えるが、そうざらに起こるわけではない。思い出は懐しきものよ。苦しきも悲しかりしも、そのままにして」とノートに書き残して出征していった友人がいたが、読書生活を回顧すると、全く同じ感慨が去来する。

おいて、私は人生の真摯な生き方を教えられ、強い感銘を受けた。著者がケルン大学の哲学教授でもあり、哲学者カントのかの有名な言葉「いよいよ新たに、益々増しく畏敬してやまざるものが二つある。それは、天上に輝く星辰とわが内なる道徳律」の意味するところのものを、大きな感動をもって読んだものである。「三太郎の日記」は、当時の学生の本読の書ともいふべき本で、著者の内省の書である。多感な青年時代であり、心うたる内容であったと記憶する。とくに「沈潜のころ」そして「真正の謙遜」ということに学ぶところが多かったと思う。この二冊が、私のその後の生き方、考え方に少なからざる影響を与えたことは確かである。次に最近の本では、ためらいなく、デール・カーネギーの「人を動かす」をはじめとする一連の本と、山本七平の「人望の研究」を挙げたい。前者は近ごろのようないミイイズム中心の社会にあって、複雑な人間関係をスムーズにやっていたために、常に念頭におかなければならない心構えが示されており、後

さて、テーマのような本を選び出すとなると、思いはさまざま、まことにむずかしいが、敢えて私の若い頃と最近読む機会を得た数冊の本を挙げてみたい。中学生時代の本で印象に残るのが、徳富蘆花の「思い出の記」である。この自叙伝的な作品は、作者のピューリタンとしての清廉さと友情、ロマンが交錯した小説で、心ひかれた私は一時期、蘆花に傾倒したものである。次に、青年時代で強烈な印象を受けたものに、ヘッセンの「人生の意味」と阿部次郎の「三太郎の日記」がある。前者に

者では、改めて「常識」、「中庸」ということについて考えさせられ、感情を所かまわず激発させることの愚を知らされた。私にとって、頂門の一針ともいふべき本だと思っている。いづれにしても読書に関する思い出は多いが、心の糧となる本は、私にとって、生涯の良き友であり師であることに間違いはない。

### ◆第二回理事会報告◆

十月二日、府立図書館において今年度第二回理事会が開かれました。今回は、六十年度予算への要望書

分担金値上げの申請について、研修計画、専門委員会の報告などについて協議し、例年どおり要望、申請することにいたしました。特に、要望書については、従来の府教育委員会教育長など四カ所から府知事、市町村長など枠を広げて提出することになりました。研修計画については、児童サービ

スを中心とした研修が行われます。

### ※訂正とおわび※

前号の「私の出会った本」(峰山町教育長河田秀夫氏)の中で、峰山町立図書館の開館(昭和二十六年七月)とありましたが、

(二十七年二月)のあやまりでした。訂正してお詫び申し上げます。

# ▼在宅貸出制度について▲

京都市中央図書館

京都市では、市民の誰もが、いつでも、どこでも、気軽に図書館を利用できるようにと一行政区一図書館の整備を進めるとともに、図書館利用の不便な市内周辺地域やへき地には、自動車文庫を巡回し、サービスの向上に努めてまいりました。しかしながら、なお、本を読みたくとも身体障害のため図書館を利用できない人が、多数おられるので、これ等の人も健常者と同じように図書館を利用していただくため、京都市中央図書館では本年七月から「身体障害者等在宅貸出制度」を実施いたしました。

この制度は、市内に在住する障害度が4級以上の身体障害者で、直接図書館を利用できない人を対象に、一人一回五冊以内一カ月間の図書の特貸出を行うものです。制度そのものは、すでに他の指定都市でも実施されており、これ等は郵送を利用して、利用者（又は介添者）は、図書の返却を郵便局まで届けねばなりません。本市の特徴はこれを解消するため、宅配業者と契約し、利用者の自宅まで貸出配送・返却受理を行い、利用者は、居ながらにして図書館を利用できるように配慮した点にあります。

実施以来二カ月間経過しましたが、登録者が二十六人、貸出冊数が百三十二冊と順調な滑り出しができたことと喜んでいます。利用者からは、「今回の制度を大変嬉しく思います」「テレビばかりの生活を変えて本を読みたいと思います」「等々の励みになるご意見をいただき、今更ながら、この制度の重要性と責任の重大さを痛感しています」。

まだ緒についたばかりで職員も不慣れで試行錯誤を繰り返して、利用者には不便をかけておりますが、今後改善と工夫を加えながら、より良いサービスができるよう努力していきたいと考えております。



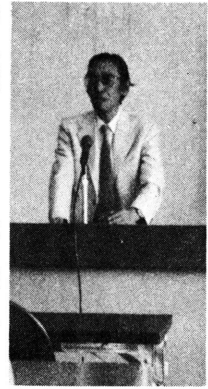
館長の異動

田辺町立図書館長  
新 加藤 晴男  
旧 栗野 讓

## 安藤美紀夫氏の講演 「児童文学の世界」を聞いて

図書館に勤務して六年目になります。今回はじめて文庫の連絡会が主催する行事に参加させていただきました。

安藤美紀夫氏の講演は児童室を担当する私にとってたいへん勉強になりました。例えば児童文学というのは、読み手の洞察力のいかんにより浅くも深くも読める。いいかえれば図書館の本の一冊一冊を利用者側に事務的に貸出している（与えている）のではいけない。選書の段階から本



当に大切にまじめに本と利用者とうまく結びつけてあげるのが図書館職員の仕事である様に思います。また、文庫の連絡会の方たちが、文庫づくりに一生懸命になっておられる一面をみせてもらいました。宮津市内にもいくつかの文庫がありますが、行事に参加できないのが残念です。北部地域だけの文庫の会が持てるために、もっと文庫づくりからはじめなければならない様に思います。（宮津市立図書館 岡本知子）



読書週間（10/27～11/9）の行事をお知らせください。  
☆読書週間になんだ行事の様子をお知らせください。  
☆広報紙・写真・案内や新聞記事などコピーでもかまいません。  
☆事務局あてお送り下さい。

# にゆうす・ニュース・News

## 「口大野図書館」の出来るまで

兼てから、テレビより読書・本離れ等取沙汰されていきます。児童図書もなく、文化的には貧しい地域です。なんとか自治会の一角にでも児童図書室が出来れば……と、思いを同じくする有志の母親二十余人で、四苦八苦しなから、六カ月の準備で無一物無一文で、各家庭より不用図書の寄附を受け、また、大宮町社会福祉協議



会・自治会・有志等から協力を得、昨年十二月三日、形だけのオープンにこぎつけました。その間はもとより、今日まで府立図書館峰山地方分館より大変な協力を得、一同心強く感謝にたえません。

まったくおそまつですが、子供達は毎週開館時間がまてずおしかけ、本離れではなく、何か欠けていたのではないかと思える位に子供達の行動は我々を励ましてくれます。

五名ずつ交替制で毎週土曜日一時～四時まで貸出し作業・図書カード分類等・紙しばい・読み聞かせ・部屋の掃除等子供との肌ふれ合いと同時に、親自身の研修にも励んでおります。オープン時は三百余冊でしたが、現在(八月)新刊三十冊購入、区民の御協力を得、千余冊までになりました。

児童幼児三十人(平均)来館で、最近中学生もちらほら来る様になりました。会報を三カ月に一度出す事となり、  
「七夕の集い」  
「夏休みの集い」を企画しました。

図書館らしきものが出来てやっとなん、まだまだこれからです。永く継続され、子供達がロマンとメルヘンの世界を味わい、口大野図書館が思い出の場となり、いい本の出

合いの場となれば、母親達はこの上もない幸いです。そして名の如く「図書館」に成長していく事を願ってやまないのです。

(丹後大宮町口大野図書館 原 諦子)

## 市内に初めての分室

### 亀岡市立図書館大井分室

亀岡市立図書館は五十五年五月に新館がオープンして以来、多くの市民に利用され親しまれていますが、どうしても図書館に近い所の人に限られてくるため、その対策として五十八年十月に大井町コミュニティセ



ンターの一室を借りて大井分室を開室しました。

この分室は試行であり、一週間に一回三時間開いています。しかも蔵書は児童書ですので子ども文庫を少し大きくしたようなものですが(現在蔵書数千冊)、それでも子ども達は毎週水曜日を楽しみにしてくれています。

今後地域に根ざした図書館に発展させたいものです。



●木津町立図書館  
JIA図書館活動自治体  
(町村)に表彰される

同館は年間貸出冊数が57年度に78,242冊(人口1人当4.76冊)で人口15,000人以上の町村で全国3位という輝かしい記録を出しています。

近畿では、狭山町(大阪)、幡磨町(兵庫)と共に10月25日、全国図書館大会の席上で表彰されます。

専 門 委 員 会 ( ニ ュ ー ス )

◆ 相互協力委員会

逐次刊行物の調査を、6月1日現在でお願いしましたが、忙しい中を各館のご協力をいただき、ありがとうございました。相互協力を進める上での貴重なデータがまとめられたそうです。

第7回相互協力委員会(7月13日田辺町立図書館)では、調査結果のまとめ方について協議しましたが、その結果、アンケート調査は、事務局でまとめて次回にレポートし、その上で各館に配布する、また、所蔵調査については、逐刊のタイトル別に所蔵館をリスト化した速報版を早期に編集することとし、次回に編集計画を協議決定し、作業を進めることにしています。

この決定に基づいて、事務局ではいろいろと段取りをしていますが、中間的な集計では、逐刊費合計20,679千円、逐刊報告点数計9,874点(内訳・逐刊成人用9,293、逐刊児童用90、新聞本紙433、新聞縮刷・マイクロ版58)という結果がでています。

調査の原本は、府立図書館にありますので、来館電話、貸出など気軽にご利用下さい。向日市立図書館では、購入計画の参考に早速活用されました。



OSAKA

全国図書館大会  
10月25日(木)～27日(土)  
ところ 大阪  
テーマ 情報新時代の図書館づくり

OH P による影絵づくり講習会  
南部図書館連絡協議会主催

▼9/12 師 加藤幹男氏(城陽市立図書館) 講  
書館) ▼影絵は切って貼って  
多様な技法で根気のよい繰り返し  
返しの積み重ねの中で作業時  
間をかけた作りあげなければ  
ならないが、一枚が出来、ス  
クリーンに撮ったときの美し  
さは華麗なそして繊細な夢幻  
の世界と本当の美しさを知る  
ことができた。一日も早く完  
成して子供達に夢の世界を味  
わってもらえるよう一生懸命  
頑張ろうといきこんでいる。  
(木津町立図書館・井上マサミ)

◆ 研修研究委員会

本年度の行事については、次の様な方向で計画することになりました。

会場は、北部と南部に設け参加しやすい条件を考慮して、児童奉仕関係に重点をおいた内容に取り組み事としました。

又、一泊研修方式による図書館基礎講座の集中研修により、図書館業務の再点検と他図書館との交流を深めて、運営に役立てる機会を設ける予定です。

なお、文化講演会は、実務研修を充実する事とし、本年は見送ることになりました。

現在までの行事は、多くの参加を得まして盛会裏に終了しています。

- 第27回実務研修会 6月29日  
府立総合資料館の見学—詳細な説明と行きとどいた見学をさせていただき、各図書館共参考業務に係る事なので、活発な質疑が交わされました。

- 京都家庭文庫・地域文庫連絡会との共催行事  
9月21日 府立勤労会館  
安藤美紀夫氏講演会“児童文学の世界”図書館職員と文庫の方々約80人が机を共にして、児童文学の課題等について実のあるお話しを聞く事が出来ました。

今後の計画を、お知らせします。多くの参加をお待ちしております。

- (1)第28回実務研修会 10月12日(金)  
綾部市中央公民館  
児童奉仕について—その理論と実際—
- (2)第29回実務研修会 11月13・20日(火)  
八幡市民図書館  
読み聞かせ講習会 講師 大野 由美  
(2回継続)

- (3)図書館基礎講座集中研修 60年2月に一泊研修(旅費・宿泊経費は各館負担)

